

ヒラリー・スコット

Hilary Scott - biography

「ヒラリー・スコットの音楽の魅力は、心の内側を描き出す歌詞と、透明感のあるソウルフルな声にある。ブルース、フォーク、ポップス、ロック、クラシックと幅広いジャンルの影響が感じられる。」（米・コロンビア・デイリー・トリビューン紙 Liz Van Hoosen） レイ・チャールズのバックでドラムを演奏していたピリー・バーズは「ヒラリーの声は感情豊かに、語りかけてくる。ヒラリーは世にいう“最高のモノ”を持っているということだ」と語った。Northeast In-Tune誌のJeff Dameは「ヒラリーには、アラニス・モリセットやトリー・エイモス、シェリル・クロウと同じくらいにビッグになる潜在能力がある。今彼女を聴いておけば、「最初からいいと思ってたよ、僕はね」と、後になって自慢できる。

ヒラリーは曲作りとパフォーマンスのキャリアをシアトルの「ブートキャンプ」並みの厳しいミュージック・シーンでスタートさせた後、2000年にミズーリ州コロンビアに移り、6人編成のバンドと共にプロのミュージシャンとして歩み始めた。このヒラリー・スコット・バンドは今も活動を続け、タニヤ・タッカー、リトル・フィート、ベス・オートンなど様々なアーティストのオープニングアクトとして、全米各地を回ってきた。ヒラリーは最近になって、セントルイスを拠点としたバンド、ヒラリー・スコット&ザ・ニュー・カントリー・ラインも結成した。

ヒラリー・スコットの作品はコミュニティ、カレッジ、コマーシャル、インターネット、サテライトなど各種のラジオ局で取り上げられ、高い注目を集めるようになった。地元紙、ザ・ミズーリアンのAmanda Dahlingは「ヒラリーの音楽は力強い歌声、流れるようなギター、親しみの湧く曲調に特徴づけられる。これらは今まさに、音楽業界が注目する音楽性そのものだ」と書いている。また、シカゴ州立大学のラジオ局、WCSUのゼネラル・マネージャー時代にJohn Kulidasは、「ヒラリーの曲はもちろんヘビーローテーションしていますよ。リスナーの反応もすごく良い。注目の新人だと見ています。ついこの間、仲間の一人がこんなことを言っていました『最近ではキャロル・キングみたいないいシンガーは出て来てないのかね。』 だからこうやってやったんですよ。『ここにいるじゃないか』って。」

ヒラリー・スコットはミズーリ州コロンビアのインディ・レーベル、Streetside Records発足以来の地元発ベストセラー・アーティストだとマネージャーのケヴィン・ウォルシュは言う。彼女はコーヒーショップ、ブルース・バー、コンサートホールからスタジアムまでどんな規模のショーもこなし、有名なフェスティバルにも出演している。ヒラリーはバンドと、6年間にわたってミズーリ州アートカウンシルとハートランド・アート・アソシエーション（米・中西部芸術協会）の主催するコンサートツアーに参加するミュージシャンとしても活動している。ヒラリーは、女性として初めてコロンビアの地元誌「Inside Columbia」の表紙を飾り、同誌が選ぶベスト・ローカル・アーティストにも何度も選ばれた。彼女は自分の会社を経営し、共同プロデューサーとして9枚のアルバム（Thief, Hypothermia, The Floating World, Come In, Come In: LIVE, Out of the Wilderness, Road to Hope, Best of Hilary Scott Live Volume 1, Consonance and Indigo）を録音した。「Indigo」は台湾でも発売され、その他の海外市場でも関心呼びつつある。彼女の曲とアルバムは、iTunesその他の音楽販売サイトで13,000回以上ダウンロードされ、CDの売り上げも4,000枚を大きく超えている。

2005年、ヒラリー・スコットはナッシュビルのプロデューサー、マシュー・ワイルダーを迎えてレコーディングを行い、5曲のソングライティングと出版契約を彼と結んだ。その後、ナッシュビルきってのスター、Angela KasetやJohn Goodwinと作曲する機会にも恵まれた。また、伝説的なソングライターKeith Colleyからは「America's Song」と題した彼の「Can Do」プロジェクトにテーマソングの作曲も依頼されている。他にも、ヒラリーは国際的に活躍するアーティストと共にソングライティングやレコーディングを行った。

2009年、ヒラリー・スコットはイタリアのサンレモ・フェスティバル（Festival Degli Autori di Sanremo）の作曲・パフォーマンス部門に参加した。高い評価を得た彼女は、2010年6月に行われた最終選考で海外アーティストの部門で優勝し、レコーディング契約を手にした。優勝曲の「And Just」は2010年秋にリリースされる同フェスティバルの記念コンピレーションアルバムに収録され、イタリア全土で販売される。彼女はこのフェスティバルの英語版テーマ曲も作曲した。間もなく彼女は、エリック・クラプトン、スティング、パヴァロッティなどの作品を手がけたことで知られる、世界的なプロデューサーEuro Ferrariとアルバム制作に入ることが予定されている。Ferrariはヒラリーの人と作品について次のように語る。「…ヒラリー・スコットの曲と声は、聴くものの心を魅了し、親密な気持ちにさせる。彼女の囁き一つで、聴衆の心には深い感情が呼び起されてしまう。感情を描き出す彼女の声の力は、非凡そのものだ。ヒラリー・スコットの歌声を生で聴くと、アメリカそのものの声を耳にしているような気がするのだ。私たちの多くが子供のころに夢見たアメリカ、ウッドストック、ジョン・バエズ、マリリン・モンロー、ジョン・ケネディ、そういう人たちを思い起こさせる。ヒラリーはいつでも次のステップを踏み出せる。大観衆、大舞台、あるいは小さなホールであっても、観衆は老若に関わらず。彼女のポップかつカントリータッチの音楽は、必ずや人々のハートに深く入り込むだろう。」

ヒラリーのフランスでの活動については、Miss Lucy and Co.が2011年のツアーを手配している。Premier Talent Internationalを通じて、ベトナム、韓国で演奏を行った。そして2010年9月から2010年1月まで、グランドハイアット福岡のバー・フィズで連日パフォーマンスを披露している。

For more information:

www.hilaryscott.com

www.myspace.com/hilaryscottmusic

www.facebook.com/hilaryscottmusic

2010年10月12日